

みちのく

ココロとカラダの癒し旅

岩手県花巻市台温泉 やまゆりの宿

台温泉は、岩手県花巻市の花巻温泉の背後の山あいひっそりとたたずむ、昔ながらの湯治場風情をよく残した温泉地だ。狭い谷間に、車がすれ違うのもやっとの細い道を挟んで、旅館や商店、民家がびっしりと肩を寄せあっている。宿は全部で十八軒。そのうちの半数近くは自炊客や素泊まり客も受け入れている。全国的にも知られた花巻温泉の華やかさに比べると、いささか地味な温泉地という印象は否めない。

しかし、ここが岩手でもっとも古い歴史を持つ温泉という事実を知れば、また新たな感興もわいてくるというのだ。伝承によれば、今からおおよそ二百年前に征夷大將軍坂上田村麻

呂の従臣がこの地に温泉がわくことを知り、將軍に入浴を勧めたといわれる。史実に登場するようになってからも六百年あまりの歴史がある。

藩政時代には南部藩の隠し湯として藩主やその近親者が湯治に訪れた記録もあり、明治・大正期の台温泉の鳥瞰図には既に乗り合い馬車や自転車の往来が描かれているほど、古くから賑わっていた繁華な温泉文化の地であった。

そもそも花巻温泉は、大正年間に湧出量の豊富な台温泉の湯を引くことを前提にして計画された温泉リゾート地であって、いわば台温泉は花巻温泉の「生みの親」とも言える存在なのだ。



山陰にひっそりとある台温泉はまさに隠し湯の印象



花巻温泉の傍らを通じた先に台温泉はある



車がすれ違うのもやっとの温泉街の道



ラウンジ 宿に到着するところで茶菓子の
もてなしを受ける



客を迎える手づくりの茶菓子



”食“を楽しむ宿に模様替え

台温泉で温泉宿を営んでかれこれ五十年となる「菊昭旅館」が、今年の四月に「やまゆりの宿」と館名を変え、装いも新たにリニューアルオープンした。

館内は民芸調のイメージで統一され、新しく露天風呂もつくられたが、一番の目玉は、囲炉裏のある会食場の新設だ。この会食場のために、それまで二十一室あった客室を五室もけずっている。収容能力を減らしてまでも実際に泊まられたお客さんに中味の濃いおもてなしを提供したいという、経営者の心意気を感じられる大決断だ。

宿泊客は、宿に到着すると、ラウンジで和菓子とお茶のもてなしを受ける。和菓子は季節ごとに趣向を変える



客室は古き良き日本旅館のたたずまい



館内は置き物や焼物で民芸調の
雰囲気演出



囲炉裏が切られた宴会場



三陸の海の幸の刺身



地元牛の陶板焼き



焼きおにぎりのお茶漬け



夕食は囲炉裏の会食場で和やかに



囲炉裏の炭でイワナと田楽を焼く

六百年の伝統の湯に浸る

た宿手づくりのものだ。
 客室そのものは手を加えられていない。古き良き日本旅館のたたずまいそのまま。渡り廊下で結ばれた本館と別館の間を溪流が流れ、客室はいずれもその溪流に面している。せせらぎの音やカジカガエルの声をBGMにしなから、しみじみとした旅情に浸るにはおあつらえ向きの風情だ。
 夕食は囲炉裏のある会食場で。料理は地場の新鮮な食材を活かした創作会席料理。女性客にも喜ばれそうな、目と舌で楽しめる料理が並ぶ。地元牛の陶板焼きや山菜のサラダなど、ありがたいな旅館料理とはひと味違う演出が嬉しい。囲炉裏ではイワナや田楽が炭火で焼かれている。
 締めくくりに焼きおにぎりのお茶漬けもちょっと面白い趣向。

温泉の泉質は単純硫酸黄泉で、無色透明の湯。ひそかな硫黄臭が漂う。台温泉には多くの源泉があり、源泉ごとに泉質も異なるようだが、いずれも肌によく、身体が温まる湯として古来より近郷近在の人々に評判高く、古い絵図や写真を見ても、早くから多くの温泉旅館が建ち並び、旅館や湯治客を相手にした商売も大いに繁盛していたようだ。

「やまゆりの宿」の浴室は、男女別に一つずつ、そして新しく露天風呂があつらえられ、夜半に男女を入れ替えるので、一泊すれば三つの風呂を全部楽しめることになる。
 全体に小振りな造りだが、むしろこ



小振りだが清潔感のある浴室



新しくつくられた露天風呂



教師退職後の賢治が活動の拠点にした羅須地人協会



朝食も夕食時と同じ会食場で



朝食の湯豆腐

旅に添える彩り

花巻といえば宮沢賢治の生まれた土地でもある。市内のいたるところに賢治関連の観光施設やゆかりの場所がある。

実際、花巻には、文学ファン、賢治ファンが訪れることも多い。賢治を偲ぶ旅に台温泉を利用する、あるいは、台温泉に泊まったら賢治ゆかりの地を訪ねてみる、というのも旅を一層味わい深いものにするだろう。

賢治が農民への技術指導の活動拠点にした「羅須地人協会」が現花巻農業高校敷地内にある。ここにもぜひ訪れてみたい。

台温泉の近くにも、賢治が花巻農

の小振りさが、山あいのひなびた温泉でのんびりとした時を過ごすという旅情の実感には好ましい。
宿としては主に女性のお客さんを想定したイメージづくりがなされており、実際に女性のグループ客も多いようだが、老若問わず、二人連れでしつとりとした気分を過ごしたい旅の宿としても、チェックしておきたい一軒だ。
また、宿のご主人のお話では、一人旅のお客さんも大歓迎とのこと。旅や温泉が好きでも、一人旅だと泊れる宿探しに苦労することがある。同行者がいなくて旅をする機会を持っていない人でも、気兼ねなく泊れる宿があるのはとてもありがたいことだ。
ちなみに、台温泉までは東北自動車道の花巻インターから一本道でわずか十分ほどの道のり。交通の便の良さも魅力の一つに挙げていだろう。

釜淵の滝には教師時代の宮沢賢治が訪れている

釜淵の滝



台川



台温泉入口にある名勝「緒ヶ瀬滝」



JR花巻駅前のモニュメント 宮沢賢治の世界をイメージしている



台焼の工房



窯入れを待つ体験
学習の子供たちの
作品



乾燥中の台焼の器



台焼の初期の作品「蓋付菓子器」は
花巻市の文化財に指定されている



台焼直売所
(有限会社 台焼 TEL.0198-27-2622)

YAMAYURI NO YADO

施設のご案内

- 客室/和室14室
(バス・トイレ付6室、トイレ付6室、バス・トイレ無2室)
 - 収容人員/59名様
 - 浴場/全2カ所
(露天風呂付内風呂1、内風呂1)
 - ご宴会場/いろいろ宴会場(28畳いろいろ3つ)、いろいろ個室5つ、小座敷、広間(舞台付45畳)、小宴会場(24畳)
 - 駐車場完備
 - ご送迎マイクロバス有り
(要予約)
- お一人様1泊2食付
12,000円より(税別)

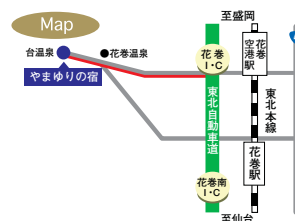
学校の教師時代に生徒を伴って野外授業に訪れた釜淵の滝があり、この時の野外授業の様子が童話「台川」に結実している。台温泉を訪れる前にこの「台川」を読んでみるのも一興だろう。「台川」では、賢治や生徒たちが辺りの地形や岩石を観察する様子がみずみずしく描かれている。多様な岩石名が登場する異色の作品だ。

岩石といえば、台温泉の近くに万寿山という小山があり、ここから産出する陶土を使って明治年間より台焼という磁器がつくられるようになった。今日まで脈々と継承され、百年あまりの歴史を持つ伝統の焼物だ。

東北で最初につくられた磁器である台焼は、「糠青磁」と呼ばれる薄緑の色合いが持ち味。現在は直売所を兼ねた窯場を花巻温泉の近くに越し、見学や手づくり体験にも応じている。手づくり体験は一人からでも受け付けるとのこと。また注文があれば一点からの制作も引き受けるとのことです、ここにも一人ひとりのお客とのつきあいを大切にする心意気がある。

山あいのひなびた温泉の湯に浸り、賢治の息吹を感じ、そして旅の想い出に焼物づくりを体験してみる…なかなか密度の濃い旅になりそうではないだろうか。

(文・写真=かとうりゅう(かとう)秋田)



菊昭旅館 やまゆりの宿

〒029-5514
岩手県花巻市台温泉2-57-9
TEL.0198-27-2055 Fax.0198-27-2754
ホームページアドレス
<http://www.michinoku.ne.jp/~daionsen/>